

第7回金山駅周辺まちづくり構想懇談会 議事要旨

○日 時：平成28年3月22日（火）10時00分～12時00分

○場 所：名古屋市役所西庁舎12階 第10会議室

○参加者：19名（随行者、傍聴者、事務局等除く）

1. 金山駅周辺まちづくり構想（素案）について

発言者	内容
松本委員	構想全体がわかりやすく、きれいになっている。パースも前回の指摘事項がきちんと修正されている。
鈴木委員	P.19の将来計画の図はカラーのものはないのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	もともとモノクロのデータなので、ない。
鈴木委員	P.22の評価のところで、第1ステップは完成形で書いてあるが、第2ステップ同様に何々したほうがよいなど、今後の課題や方向性なども書いたほうが、バランスが良い。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	指摘通りに含みを持たせた書き方に修正したい。
市民経済局 観光推進室長	P.57 などにある歴史拠点の中身を聞きたい。また P.57 の文章中に歴史拠点を配置し…、とあるが、新しく何かを設けるのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	歴史拠点は地域の名称の発祥にもなった金山神社を指している。現在は資源として埋もれている感があるが、今後拠点として取り上げていきたい。
市民経済局 観光推進室長	歴史的な史跡やスポットという意味ならば、拠点という表現は違う。拠点というと歴史を象徴するものという意味に受け取られる。また、配置すると書くとか何かを持ってくるイメージがあるが、既に存在するのなら、これも表現がおかしい。表現を工夫してもらいたい。
松本委員	歴史拠点は熱田神宮や白鳥庭園などで、もう少し離れた位置にあるのではないかと。矢印を歴史拠点から離して書くとよい。また、名古屋城と熱田を結ぶ歴史軸であるという意味合いを表現できるとよい。

住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	ゾーニングの中に歴史拠点と書くと違和感があるのはその通りだと思う。歴史軸の件も含めて検討する。
松本委員	既存の資源を活かす方向で修正をお願いしたい。
名古屋鉄道株式会社 事業企画部 企画担当課長	P.62 の土地利用計画の将来図をみると、文化・芸術拠点を古沢公園に配置しているが、公園がなくなってしまうイメージに受け取られかねない。代替地は②③に書かれているオープンスペースだと思うが、何か工夫は考えているのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	古沢公園の機能を担保することは必要と認識しているので、②③のオープンスペースの中で機能をきちんと確保していきたい。
緑政土木局 企画経理課主幹	②③のオープンスペース相当分を、場所が特定できないように縁ぼかしの緑色で書き込めないかと事務局に提案しているところである。しかし、全体の緑の配置計画が全くない中で、そこだけ緑を塗ると整合性がなくなってしまう。一方で P.27 のアンケート結果をみると、緑への不満が非常に高く、ニーズも第 3 位と強い。緑被も栄周辺より圧倒的に少ない。そういう状況なので緑については何らかの配慮をしてもらいたい。 P.64 のスケジュールをみると、古沢公園街区の整備後も②③での整備は行われているため、新しいオープンスペースができあがるまで、かなりの年数の間、公園がなくなることになる。これを地元を示すプロセスワークを誤ると、公園がなくなってしまうと受け取られかねない。地域の理解を得るための努力は事務局に頑張ってもらいたいと思う。 構想をそのまま出すのであれば、構想から次のステップに移るための条件を局から事務局へ書面で提出したい。
松本委員	②③のほかに、シンボル軸やにぎわい集積軸にも並木があるとよい。それを含め、緑のイメージは P.62 の図には追加してほしい。 P.64 でオープンスペースがない期間が生じることについて、住民への説得をどのようにするかは大変重要である。緑やオープンスペースが現在より増えるなど最終目標を示すとよい。
緑政土木局 企画経理課主幹	工事中にオープンスペースがなくなるのは仕方がない。名駅でも同じような状況にあり、民間事業者が公共還元で容積割増を受ける代わりに緑地整備を進めている事例もある。市民会館は空白期間を設けずに持続できるのであれば、緑も同じようにやれと言われると思う。それに対する返答としては、完成は後になるが、地域全体の緑地の面積が増える、現在よりも良いものができる

	いう点を強調して説明するしかないと思う。
前川委員	P.62 について、アンケートではイオン金山に行く人が最も多かった。その場合、オープンスペースを通って行くことになると思う。東側にはにぎわいの道路があるが、西側道路の回遊性に関する工夫は何かあるのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	西側道路はシンボル軸であり、イオン金山に行く際もシンボル軸を通るものとして考えているが、東側同様ににぎわいを集積する考えはない。
前川委員	歩道もあり、いい道路になっているので、回遊できるといい。
松本委員	シンボル軸や文化・芸術拠点の下の東西道路にもにぎわい集積軸同様の赤い線を引いてはどうか。 子どもから高齢者までゆったり暮らせるまちとして、マンションなど高層居住の考え方が見えない。また快適な子育て、高齢者が暮らせるまちのイメージが伝わってこない。基本方針の中で「住む」ことについて追加できないか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	居住についてはこれまでの懇談会でも議論し、その結果、居住を入れると方向性がぶれてしまうため、敢えて入れないことになったと思う。
松本委員	高層居住ゾーンのようなものを、商業・業務ゾーンと並列で書くことはできないか。マンションは必ずできると思う。
前川委員	民間が実施する事業になるだろうが、居住とあわせて、子育て関連施設も駅の近くにあるとよい。
松本委員	保育所など子育て関連施設について、にぎわいの継承・発展の部分に図中や文言に書いてもらえるとよい。
鈴木委員	保育環境については、P.71 の「構想が実現すると」に「夜遅くまで子供を預ける事が出来る保育園があり、」とあるので、それに対応するものが前段にあるとよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	市の保育所を新たに申請するのは厳しいと思う。今あるものを新しくすることや拡大することは可能性があるかもしれない。
住宅都市局 まちづくり企画課長	商業・業務ゾーンや複合・居住ゾーンは、全体を高層利用していく中で、特化した機能を表現している。商業・業務の中に居住を入れたり、複合・居住ゾーンに商業・業務を入れたりすると、ゾーニングが均一化してしまう。子どもや高齢者の共住イメージは複合・居住ゾーンのところでくみ取ってもらえればと思う。

松本委員	P.49 の都市機能の集積のところで、都市機能が集積すると保育所や都市居住も必要になってくるということを文言で入れてもらいたい。都市居住は高層居住でなければならない。
交通局 資産活用課長	民間にしてもらうことだけでなく、市のまちづくり構想として市としての方針や施策が何か、いつまでに何をするのかについて認識をもっと持ってもらいたい。民間の誘致を期待するにしても、そのための税制などの緩和などもある。まず市がやるべきことは何か、民間には何を期待するのか、それをもう少し鮮明にするとよりよくなるのではないかな。 例えば、市民会館の西側にレストランがあるといいという議論もあった。何を誘致するかについても表現できるとよい。
松本委員	公共と民間の使い分けについて、緑の場合も議論にあったが、民間の整備を誘致するだけでなく、官民が一緒になって整備、管理していくことが望ましい。土地利用計画をはっきり書けない部分もあるが、最終的にはもう少し具体的にしてもらえるとよい。
住宅都市局 都市計画課長	古沢公園の件は、構想の範囲よりも広い範囲において街区公園適正配置の中で考えるべきことで今後検討することになる。 パースにキャプションがないと何を伝えたいのはわかりづらい。最低限、場所だけでもあるとよい。 P.57 のシンボル軸のパースは、シンボル軸を官民共働でつくるなど思想も含まれたものである。概念としては大変重要であるため、動線計画図の後に、その思想を 1 ページ書いた上で、パースを載せたほうが効果的だと思う。
松本委員	キャプションを付けることは良いことだと思うので、是非付けてほしい。緑に関するパースが 1 枚あってもいいのではないかな。
緑政土木局 企画経理課主幹	希望としてはほしいが、まちづくり構想をもって、民間への協力を求める説明の際に、強い縛りと受け止められて、事業実現性を損なってはよくない。表現の方法は事務局と調整して、基本方針の個別施策の中に文言で組み込むなど、図でなくても意思が伝わるように工夫してもらえるとよい。 公共と民間の役割分担を明確にし過ぎると、条件と受け止められてしまうこともある。そこは施設設計や事業者公募の段階で改めて再度協議できればよい。
松本委員	公園の件については、周辺の緑との関係、位置付けの説明があるとわかりやすい。
JR 東海企画開発部 担当課長	現在の市民会館は地下通路で駅とつながっていて、雨にぬれずに行けるため、便利である。将来も地下通路や地下街でつながる

	とよい。位置が駅から遠くなる中で、公共交通を使って来てもらうためには、地下での接続ができるとよい。
住宅都市局 交通施設管理課長	考え方として、自動車動線について、駅周辺に入ってこれないようにするのか、なりゆきに任せるのかどちらなのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	考え方としては、自動車は極力中に入ってこないようにしていきたい。
住宅都市局 交通施設管理課長	北側の都市計画駐車場の隣に文化・芸術拠点ができることになると、この駐車場が施設の駐車場なのか、地区の駐車場なのか、役割があいまいになる。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	現在の古沢公園都市計画駐車場も市民会館利用者による利用が多い。①②の施設整備にあたっては附置義務駐車場が必要になるが、見込みでは都市計画駐車場の容量よりも大きくなるはずである。それを一般の公共駐車場としての利用も可能にすれば、都市計画駐車場の役割も果たすことができる。
鈴木委員	駅南についても駐輪場が駅北とは別に必要だと思うが、既存の駐輪場を使うため、P.62 では書いていないだけなのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	駅南側にも駐輪場の表記を追加したいと思う。
鈴木委員	P.33 回遊性の拡大の箇所で、公共交通との連携が書かれ、公共交通の必要性が示されている。しかし、P.44 では図には地域間ネットワークの矢印はあるが、文章には公共交通の文言がなく、公共交通との連携を強めていくとは読めない。情報発信の連携・強化にとどまっている。この辺りに不整合があるため、明確にしたほうがよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	その点については、P.54 の乗り継ぎ利便性の確保に書いたほうがよいと思う。内容については検討する。
熱田区役所 まちづくり推進室長	回遊性の拡大について、P.33 に公共交通と連携した回遊性があるので、巡回バスやレンタサイクルなどの施策があるかと思ったが、P.64 の地域内外の回遊性の向上には何も謳われていない。P.44 の図の赤い線は何を意味しているのか、確認したい。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長	P.44 の赤い線は既存の鉄道路線やバス路線をイメージしている。
松本委員	動線計画のあたりに、どうやっていくのか追加してもいいので

	はないか。面的（機能的）な計画とそれらを結ぶ線的な計画、それから回遊性の動きの計画が示せると分かりやすいと思う。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	回遊性については、都市マスにも書いてあり、大きな課題であると認識している。しかし、約束できる施策がない状況であり、書き込み方が難しい。
名古屋観光コンベンション ビューロー コンベンション部長	P.39 のコンセプトの文章に、宿泊の意見が反映されている。さらにできれば、個別の基本方針の施策の中（(1)にぎわいの継承・発展＞③都市機能の集積か、(4)交通結節点＞①乗り継ぎ利便性の確保）にもホテルの充実化を記載してほしい。 P.53 のパースに「i」マークが入っているが、Question & Answer をイメージすると「？」マークのほうが適切かと思う。案内所だと「？」マークをつける。一度検討してほしい。
松本委員	ホテルについては、P.41 あたりに追加できないか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	「i」マークについては、現在、名駅で鉄道事業者を交えて、サインを検討しているところなので、その結果にならっていきたいと考えている。
市民経済局 文化振興室長	P.59、60 で、北側の駐車場については、文化・芸術拠点だけでなく、その南の商業等施設も含んだ駐車場になると思うので、位置をもう少しばかしてもらいたい。市民会館のところにあり、市民会館をつくる際に制約が増える気がする。 金山南ビルは平成 30 年度でボストン美術館が閉鎖される。その後何が入るかは何も決まっておらず、来年 1 年ぐらいかけて検討する予定である。にぎわいの拠点にはしたいと考えているが、文化・芸術施設が入るかどうかは分からない。そのため、基本方針(2)に金山南ビルの活用を入れると、次の施設の検討の制約になる。もう少しやわらかい表現にするか、ばかしてほしい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	駐車場については、特に P.60 でこだわる施設ではないので、表記を消したい。ボストン美術館の件については別途相談したい。
交通局 経営企画課主幹	前回、バリアフリーに関する意見が出たが、その後、何か検討したことはあるか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	P.39 コンセプトの文章の中に、考え方としてユニバーサルデザインなどの表現を追加した。
交通局 自動車施設課長	P.59、60 の図で大きな軸としてシンボル軸とにぎわい集積軸の 2 つがある。メインはシンボル軸だと思うが、色は赤のにぎわい集積軸のほうが目立っている。シンボル軸を強調するようにメリ

	ハリがあるとよい。
交通局 電車施設課長	P.65 の文章でアスナル金山街区、市民会館街区、古沢公園街区の3つとも官民連携で進めることを考えているなら、表現を明確にしたほうがよい。そうすれば、行政のスタンスも分かり、地域の理解も進む。主な公有地の枠内にも民間開発との文言があってもいいのではないかな。 広域避難スペースについて、事業の各段階で、仮設でも広域避難スペースを確保しながら推進していくことを明確にできるとよい。 構想全体の構成として、1 趣旨、2 対象範囲、その後に6 北地区整備計画の実施状況、8 課題、9・・・、との構成でいいのではないかな。3 歴史や4 潮流、7 アンケート調査などは参考でよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	官民連携については、構想段階では、いろいろな可能性があることが読めるようにしたい。但し、実施計画をつくる際には枠組みをしっかり決めて進めていく。 広域避難スペースについては、P.50 で掲げているが、所管部署とも協議した結果、このような書きぶりになっている。今後調整する中で、もう少し検討したい。 全体構成については、4～7を受けて8 課題をまとめているため、4～7は本編のままでよいと思う。
松本委員	4～7はそれぞれ章を立てなくても、もう1段階下げてもいいのではないかな。そのほうが目次もわかりやすくなる。
中区役所 まちづくり推進室長	P.62 で、古沢公園に文化・芸術拠点を整備するため、公園の機能継承について、もう少し分かりやすい記述があるとよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	P.63 (3) の文章で、「これまでより豊富な緑地空間の形成を進めていく」と記述している。
名古屋まちづくり公社経営企画室長 (代理)	P.57 にオープンスペースの例として、P.43 にラゾーナ川崎が挙げられている。事業レベルの話になるかもしれないが、管理は行政が行うのか、それとともにぎわいづくりのために民間で行うのか。P.49 のパースをみると、行政が管理するように思う。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	管理についても、構想段階では明らかにしなくてもよいと思う。構想ではいろいろな可能性があるように記述したい。管理についての具体は事業レベルで検討することになる。
松本委員	事業は、官民、住民、学が関わると思うが、皆で協力して進めていくと考えればいいのかと思う。住民をいかに巻き込むかが重要であり、ワークショップなどの機会が今後あるとよい。

交通局 電車施設課長	構想段階と事業計画段階とは計画内容が完全にはリンクしていないということだと、構想実現に向けての推進体制が示されていることについては、構想が策定された後に、再度、こうした場で事業計画を立ててから、進めるというイメージか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	本懇談会は構想が策定された後は解散になるが、構想実現のためにはまた別の枠組みが必要になる。P.67では、その中のひとつとして、行政が事務局となって事業計画や安全確保計画をつくるイメージを挙げている。一方で、P.68のソフトについては、地域主体が主体となって進めてもらいたいと考えている。
松本委員	今回の意見を取り入れて、次に進んでももらいたいと思う。 以上